

本年度の学生・研修医部会方針固まる

“家庭医マインド”を伝える存在 夢を拡げるプロジェクトスタート



2002年度代表より

夏のセミナーにて行われました学生・研修医部会総会にて、本年度の代表として一年間勤めさせていただくことになりました。微力ではありますが、少しでも家庭医を目指す仲間が増えることを願って、スタッフ一同出来る限りのことをしていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

学生・研修医部会の役割について

研究会会員の先生方の“家庭医マインド”を「家庭医」に興味を持った学生・研修医に伝えていく存在でありたいと考えています。また、学生や研修医同士でも情報を交換することにより、さらに個々人が夢を大きくしていけるような存在でもありたいものです。そのために今年はいくつかのプロジェクトを運営していく予定です。

ホームページを通じた情報提供

様々な情報を参考にしながら、家庭医に関する情報などを積極的に発信してゆきたいと思っています。

メーリングリストを通じての意見交換

家庭医を目指す上での悩み、勉強方法、研修の情報交換、セミナー情報など、多岐に渡る情報を積極的に交換していく予定です。既に参加者

は150名ほどと、非常に大きなネットワークとなっております。

「家庭医を目指す君たちへ」プロジェクト

これはこの夏より始まった新しいプロジェクトです。家庭医療学研究会会員の先生方から、学生・

研修医へ向けた温かい励ましの言葉をいただき、メールマガジンとして発信し、また夏期セミナーで冊子として配布するプロジェクトです。

学生・研修医のための夏期セミナーの企画

年々規模が大きくなり活性化してきている夏期セミナーについて、その企画について関わることで、学生のニーズに答えるより素晴らしいセミナーを目指していく予定です。

学生・研修医部会2002年度代表
筑波大学医学専門学群5年 寺澤 富久恵

低学年にも、この魅力を！

私が、家庭医療学研究会の夏期セミナーに参加したのは2年の時でした。その時は、自分がここまで家庭医療に興味を持ち、関わっていくとは、思っていませんでした。それほど家庭医療には魅力があるのだと思います。高学年、研修医の方だけでなく、低学年の方にもこの魅力を感じていただけるはずですよ。また来年もそのような夏期セミナーにしていきたいなと思っています。

学生副代表
聖マリアンナ医科大学3年 井川 理映子

8月9日～11日に開催された夏期セミナーの席で、家庭医療学研究会学生・研修医部会の副代表に推薦していただき、一年間勤めさせていただくこととなりました。たくさんの方々と交流を深めながら、学生・研修医の皆さんと一緒に家庭医療について考えていきたいと思ひます。不慣れですが、皆様の意見を参考にさせていただきつつ、楽しくお互い刺激しあえる会であり続けるよう、頑張っていきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

研修医副代表 国立病院東京医療センター
研修医1年目 菊地 涼子

第14回 学生・研修医のための 夏期セミナーを終えて

今年の夏期セミナーは、東医体などの日程からずらしたこともあり、学生・研修医の参加者が150人、講師の先生や世話人の先生も入ると180人を優に越す、大規模なものとなりました。参加者の皆さんからは、楽しいセミナーだったとお言葉をたくさんいただき、ほっとしているところです。

私は夏期セミナー実行委員長として一年間、他のスタッフたちと一緒に、日程・開催地決定から申し込み受付、セッションの企画などをやってきましたが、その中で去年と大きく異なる点は、このセッションの企画を学生スタッフが行ったということです。

10人弱の学生スタッフが去年の年末から、自分たちならどのようなセッションを受けてみたいか、去年のセミナーでよかったものは続けつつも、毎年来てくださるリピーターの皆さんがつまらないと思わないためには、どのような「今年らしさ」を加えたらよいかなど、頭を悩ませました。また希望にあう講師の先生方を紹介し

ていただいた後も、各セッションに担当学生スタッフが1人ずつつくようにして、講師の先生方と一緒に当日まで、企画を練り上げました。

このようにスタッフ全員で思い悩んで、講師の先生方と一緒にセッションを作り上げたからこそ、皆さんに満足していただけるセミナーになったのだと思ひます。

私にとっても貴重な体験ができた一年でした。ありがとうございました。

夏期セミナー総務
信州大学医学部5年 加藤 はるか

第15回夏期セミナーに向けて

医学部に入りたてだった3年前の僕は「少しでも医療の現場を知りたい、医者っぽいことをかじってみたい!」とうずうずしていました。そんな時目にしたのが、夏期セミナー参加募集の案内でした。一緒に掲載されていた豚足実習の様子を写した写真に妙に惹かれてセミナーに参加しました。全国の見ず知らずの学生と交流できるのが楽しく、熱のこもったセッションがためになり、頭を使ったあとに飲むビールが「うまい!」というたいへん素晴らしいものでした。

そこで得た刺激とエネルギーは、決してその場限りのものではなく、その後の自分を方向付けるようなインパクトを持った何かだったと思ひます。そして、そのインパクトに押されて、気がつけば2003年の夏期セミナー企画委員長という大役を任されてしまった自分がいます。

自分がこれまでのセミナーから得た楽しさと刺激を、多くの人が味わえる場所を来年も作り出したいというのが今の僕の抱負です。ご指導・ご協力宜しくお願ひ申し上げます。

2003年の夏期セミナー企画委員長
信州大学医学部3年 渡辺 慶介